

文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信 (②セ01-13-3/5)

目 的

文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国における文化財保存・修復事業を推進する。

成 果

1. 国際会議等出席

文化財保護の国際動向を把握し、国内外の関連機関との連携を深めるために、以下の会合に参加した。また、集約した情報や今後の課題については、研究発表のかたちでも一部発表した。

世界遺産委員会（プノンペン、2013（平成25）年6月16日～27日）、ICCROMの理事会・総会（ローマ、2013（平成25）年11月24日～30日）、無形文化遺産政府間委員会（バクー、2013（平成25）年12月2日～7日）

世界遺産委員会では、事前調査や会議の分析を通じて、日本政府代表団を支援した。また、世界遺産委員会で得られた情報を効果的に国内の関係者と共有するためのニーズ調査を実施した。無形文化遺産政府間委員会においては、補助機関に選ばれた日本政府団の一員として、無形文化遺産代表リストへの記載の審査を行うとともに、審議の要約を作成した。

2. 文化遺産（動産文化財）保護についての調査・研究

アメリカ国内には2万館を超えるミュージアムが存在し、指定品クラスの日本の美術作品を収蔵している美術館も少なくないが、文化行政を担当する省庁は存在せず、独自の方法で文化財が保護されている。また、欧米の美術館・博物館の果たしている歴史的・社会的役割は、日本における文化財保護を考える上で、大いに参考になる。以下の美術館・博物館において、所蔵日本美術作品及び作品管理状況についての調査を下記の日程で行った。調査成果については論文および口頭で一部発表した。

デトロイト美術館（2013（平成25）年6月26日～7月2日）、エジンバラ国立博物館（2013（平成25）年11月14日～19日）、ボストン美術館、ハーバード大学美術館、イザベラ・ガードナー美術館（2014（平成26）年2月10日～14日）

3. 対訳法令集シリーズの刊行

本年度はインドネシアについて、文化財保護関連の基本的法令の条文を和訳し、対訳法令集シリーズとして1冊刊行した。

論文

- ・EMURA Tomoko, Rimpa Artists and Samurai class, Bulletin of the Detroit Institute of Arts. vol.88, 14.3

発表

- ・二神葉子「世界遺産－現状と問題、将来像」第47回オープンレクチャー 東京文化財研究所 13.10.5
- ・境野飛鳥「アメリカの動産文化財保護制度」第4回総合研究会 東京文化財研究所 14.2.4
- ・江村知子「文化財の国際情報の活用－日本美術作品を中心に」第4回総合研究会 東京文化財研究所 14.2.4
- ・二神葉子「ユネスコ無形文化遺産保護条約第8回政府間委員会」第14回文化遺産国際協力コンソーシ

②国際協力・交流等 Area11

アム研究会・文化遺産保護の国際動向 14.3.7

刊行物

- ・『各国の文化財保護法令シリーズ [18] インドネシア』 東京文化財研究所 14.3
- ・『国際資料室蔵書目録』 東京文化財研究所 14.3

研究組織

- 江村知子、川野邊渉、山内和也、友田正彦、加藤雅人、境野飛鳥、新免歳靖、渡部妥子、高多加奈子（以上、文化遺産国際協力センター）、二神葉子（企画情報部）